

* 東京天文台当時に撮られた古い天体写真乾板の管理と保存 (1) (この記事は佐藤英男氏の執筆)

はじめに、

国立天文台には、旧東京天文台当時にいくつかの望遠鏡で撮影された古い天体写真乾板が数多く存在する。このうち、ブラッシャー天体写真儀で撮影された写真乾板の中で、現存するものについては、中村士氏(元国立天文台職員)ら数名の作業のもと整理され電子化と出版もさされている。しかし、未だに多く残存するおよそ数万枚の古い乾板は、国立天文台構内にある旧図書庫1階の数個の書架に集められ保管されている。現在、天文情報センター・アーカイブ室では、これらの天体乾板類の保存に向けた保守と管理の作業を開始している。この作業は佐々木五郎氏(先端技術センター)がほぼ一人で週1日の割合でこの遂行している。

今回はこれまで進めてきた作業の中の一部、今から80年程前に活躍していたアマチュア天文家、清水真一氏(静岡県島田市)が1930年頃から1940年代にかけて撮影した古い天体写真乾板を紹介しよう。

○ チシン(知新)観象台の望遠鏡で撮られた天体写真

清水真一氏(1889-1986)は日本の天文愛好家の天体写真家の草分け的存在。氏は1933年、口径10センチメートル屈折望遠鏡を赤道儀に据付し、チシン観象台(CHISHIN ASTRONOMICAL OBSERVATORY)を設立した。因みにチシンという言葉は「温故知新」の知新に由来しているらしい。その後8センチメートル双子写真儀を装備し、主に小惑星や彗星など太陽系内天体の観測を行ったほか新星、恒星、星団、銀河などを撮った乾板も多く存在する。氏は1937年、広瀬秀雄氏(元東京天文台長)が求めた予報計算を使い、当時行方不明だったダニエル彗星の検出に成功するなどアマチュア天文家による周期彗星検出者の第一号となる(写真1)。昭和21年、この望遠鏡は静岡県立中央図書館葵文庫(注)に寄贈、昭和38年頃まで使用されていたが、昭和40年頃に葵文庫の移転計画もあり、この望遠鏡は静岡県立児童館に移された。その後島田市立図書館所属清水文庫に引き継がれ現在に至っている。また多くの天体写真乾板は東京天文台に寄贈した。佐々木氏はまずこの乾板の清掃整理と管理保存に努めている。氏が使用した乾板は手札サイズ(富士写真工業の天文用特殊乾板)であり、観測後現像処理を行い、表面に必要事項を記入し丈夫な紙製袋に保存されている。乾板の多くは経年変化により膜面の剥離などだいぶ痛んだ状態のものもあり、これら選定作業も踏まえ慎重に作業を進めている。氏が撮影し寄贈した乾板数は2000枚ほどと推測されるが作業遂行中なので正確な枚数は定かでない。撮影された乾板のうち乾板番号、No 928は1936年にわし座に出現した新星を同年10月21日に整色乾板

を用いて 30 時間露出 (21 時 5 分~21 時 35 分) し観測した「わし座新星 = V368 Aql」の乾板と包装袋紙 (写真 2) である。



写真 1 望遠鏡を背後に広瀬秀雄元東京天文台長 (左) と清水真一氏 (右)

No. 928 Date: OCT 21 1936

Object: *Nova Aquilae*

R.A. $19^h 23^m 20^s$ (1936) $7^h 20^m 11^s$ (1900)
 $19^h 21^m 47^s$ (1936) $7^h 23^m 09^s$ (1900)
 $19^h 19^m 32^s$ (1936) $7^h 18^m 09^s$ (1900)

Centre:

Instrument: *B 5*

$21^h 5^m$ s — $21^h 35^m$ s

Exposure: *30* m s

Plate:

Remarks: *disc. in Oct.*

CHISHIN ASTRONOMICAL OBSERVATORY

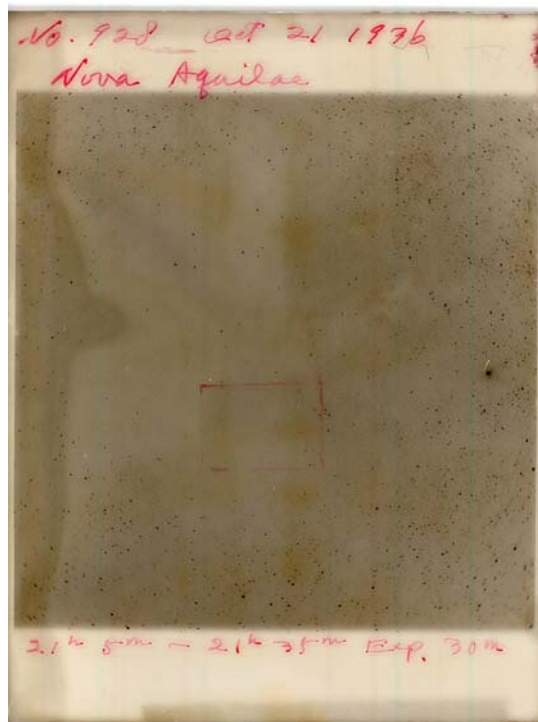


写真 2 1933 年 10 月 12 日に撮られた乾板番号 928 の写真乾板とその包装紙 (乾板は経年変化のため、だいぶ色褪せている)

清水真一さんとチシン望遠鏡

静岡県島田市でチシン（知新）薬局を経営していた清水真一氏は1909年千葉医学専門学校薬学科を卒業、本業のチシン薬局を営む傍ら、写真処理技術に優れた才能を発揮し、本邦初の家庭用映画ベテーパービーの反転現像に成功している。1937年ダニエル彗星(33P/1937 B1)の再発見の功により、広瀬秀雄氏とともに日本天文学会天体発見功労賞受賞。1975年11月に島田市の名誉市民となる。1986年6月5日死去。

因みに小惑星 Shimizu = 1932 CB1 (小惑星番号 2879) は氏の業績を称え命名されたもの。

注：「葵文庫」とは慶応4年（明治元年、1868年）徳川氏が駿府（現在の静岡市）に移されたことによってもたらされた江戸幕府の旧蔵書の一部です。その内訳は、蕃書調所、開成所の蔵書（蘭書・仏書・英書・独書）など洋書約2,300冊、さらに、林羅山以後の歴代林氏が所蔵していた和漢書約1,300冊などです。この「葵文庫」は、江戸幕府が所蔵していた書物のコレクションとしては、わが国でも有数なものとして知られています。（この部分は静岡県立中央図書館のホームページ、デジタル葵文庫の中から許可を得て転載）

参考文献： 富田弘一郎 日本の小惑星命名宝鑑 （1997） 小惑星会議